

報告・協議 1

平成 29 年度広島県高等学校学力調査の結果について

このことについて、別紙のとおり報告します。

平成 30 年 3 月 28 日

広島県教育委員会教育長 下 崎 邦 明

平成 29 年度広島県高等学校学力調査の結果について

高校教育指導課

I 学力調査の概要

1 趣 旨

学習指導要領における教科・科目の目標の達成状況を把握し、今後の各学校における指導の工夫・改善に役立てる。

2 実施対象校

公立高等学校（中等教育学校後期課程を含む）の1年次及び2年次の生徒並びに特別支援学校で高等学校に準ずる教育課程を履修している1年次及び2年次の生徒

- ・ 全公立高等学校（中等教育学校後期課程を含む） 93校
（県立高等学校81校，市立高等学校11校，市立中等教育学校1校）
- ・ 特別支援学校 6校

3 実施期日

平成29年11月16日（木）

4 実施教科及び実施時間

- ・ A問題（第1学年相当）・・・中学校の学習内容約7割，高等学校の学習内容約3割で構成
- ・ B問題（第2学年相当）・・・中学校の学習内容約3割，高等学校の学習内容約7割で構成

教科	科目	問題
国語（50分）	国語総合	A問題
		B問題
数学（50分）	数学活用	A問題
	数学Ⅰ	A問題
		B問題
外国語（50分）	コミュニケーション英語基礎	A問題
	コミュニケーション英語Ⅰ	A問題
		B問題

- 質問紙調査 ・ 生徒の生活や学習に関する意識・実態についてのアンケート調査
 ・ 学校の指導方法等に関するアンケート調査

II 学力調査結果の概要

1 科目別平均通過率等

- ・ 国語総合A問題，数学ⅠA問題については，通過率60%以上の生徒の割合が7割を超えていることから，基礎的・基本的な学習内容はおおむね定着している。
- ・ 国語総合B問題，数学ⅠB問題，コミュニケーション英語Ⅰについては，通過率60%以上の生徒の割合が7割を下回っていることが課題である。
- ・ 数学Ⅰ，コミュニケーション英語Ⅰについては，通過率30%未満の生徒の割合が5%を上回っていることが課題である。

教科		国語		数学		外国語	
科目		国語総合		数学Ⅰ		コミュニケーション英語Ⅰ	
問題		A問題	B問題	A問題	B問題	A問題	B問題
平均通過率 （%）	H29	68.0	65.3	66.6	65.2	63.5	62.4
	H28	68.6	69.9	64.5	65.1	67.2	67.3
通過率60%以上 の生徒の割合 （%）	H29	71.3	61.3	71.5	64.5	60.8	54.8
	H28	72.5	76.5	66.4	65.5	64.6	65.0
通過率30%未 満の生徒の割合 （%）	H29	3.5	4.6	5.6	7.3	9.3	9.6
	H28	3.3	2.0	9.5	8.0	11.3	8.9
実施対象生徒 数〔人〕	H29	16,013	14,564	15,719	14,684	15,735	14,726
	H28	15,810	14,765	15,517	14,912	15,350	14,934

2 各教科のまとめ

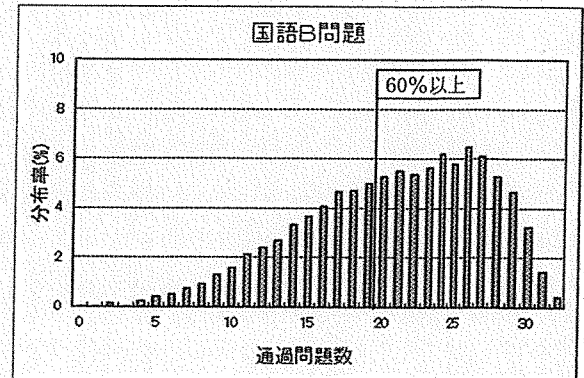
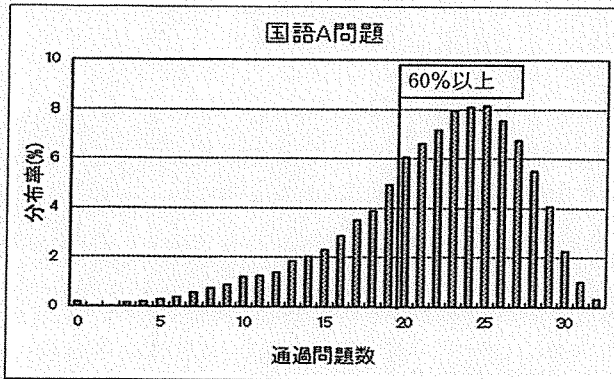
平成 29 年度に明らかになった主な改善・定着の状況と課題及び指導改善のポイントは次のとおりである。

改善状況と課題 (○ 改善・定着, ● 課題)	指導改善のポイント
<p style="text-align: center;">国 語</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 古典の文章（漢文）を読むことについて、文章全体の内容を的確に読み取るとはA問題では改善，B問題では定着。 ○ 古典の文章（漢文）を読むことについて、文章の内容を叙述に即して的確に読み取るとはA問題では改善。 ○ 説明的文章を読むことについて、文章の内容を叙述に即して的確に読み取るとはB問題では改善。 ● 古典の文章（古文）を読むことについて、文章全体の内容を的確に読み取るとはA問題では課題。 ● 古典の文章（古文）を読むことについて、文章の内容を叙述に即して的確に読み取るとはA問題では課題。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 古典の文章を読むことの指導において、本文中に根拠を求めつつ、登場人物の変化する心情を表現させたり、登場人物の心情に着目して人間関係を理解させたりすること。 ◆ 説明的文章を読むことの指導において、具体例を抽象化（一般化）することで、筆者の主張を的確にとらえさせること。
<p style="text-align: center;">数 学</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 三角比の定義の理解と公式の定着において、三角比を活用して、直角三角形の辺の長さを求めること、三角形の面積を求めることは定着。 ○ 二次関数の値域を求めることは改善。 ● 二次関数の式とグラフの関係を考察することに課題。 ● 三角比の定義の理解と公式の定着において、三角比の値を求めることに課題。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ グラフから読み取れることや関数の式における係数の意味について、類推させたりまとめさせたりして、それらの関係について考察させること。 ◆ 図形に関する既習事項と関連付けながら考察させ、三角比を用いた公式や定理のよさを実感させることで、三角比についての知識を定着させること。
<p style="text-align: center;">外 国 語</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ まとまりのある英文を読んで、その概要や要点を把握することはA問題では改善。 ● まとまりのある英文を読んで、その概要や要点を把握することはB問題では課題。 ● 伝えたい情報や考えなどを正確に書くことは課題。 ● 伝えたい情報や考えなどを整理して理由とともに書くことは課題。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 読んだ内容に対する自分の考えなどをグループ内で交流し合うなどして、自分の考えなどを整理・統合し、表現する学習活動を取り入れること。 ◆ 学習したり体験したりした内容について、相手に正しく伝わるように正確に表現するために、ペアやグループで英文を読み合い、発表する学習活動を取り入れること。 ◆ 読んだ意見文の論理構成の特徴を吟味し、それを踏まえて自分の考えなどを整理してパラグラフ形式で書く学習活動を取り入れること。

3 通過問題数ごとの受験者数比率

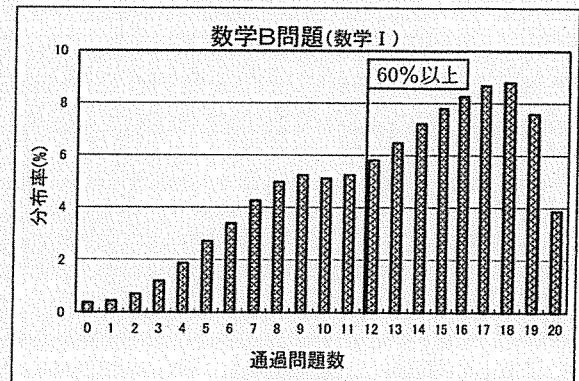
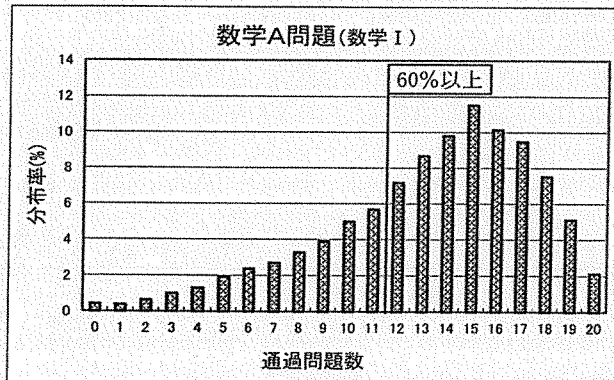
【国語】

国語総合のA・B問題ともに、通過問題数の分布状況を示すグラフの全体の形が概ねはっきりとした右寄りの山形であることから、基礎的・基本的な学習内容は全体として定着している。



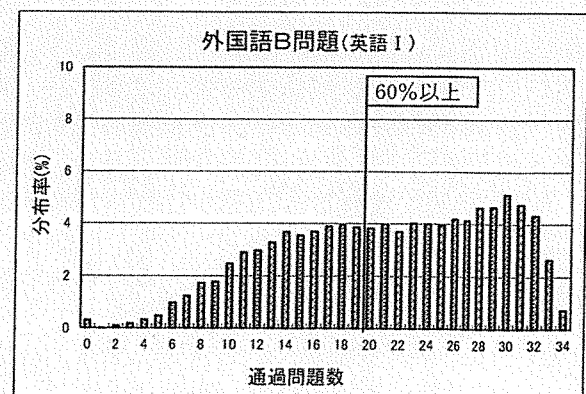
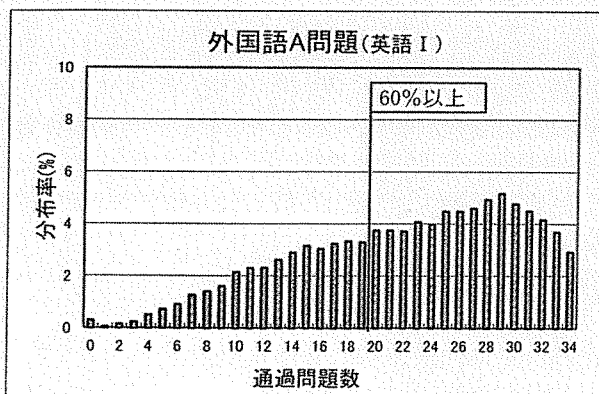
【数学】

数学IのA・B問題ともに、通過問題数の分布状況を示すグラフの全体の形がなだらかな右寄りの山形であることから、基礎的・基本的な学習内容は全体として定着しているが、定着が不十分な生徒も少なくない。



【外国語】

コミュニケーション英語IのA・B問題ともに、通過問題数の分布状況を示すグラフの全体の形がなだらかな右寄りの山形であることから、基礎的・基本的な学習内容は全体として定着しているが、定着が不十分な生徒も少なくない。



4 「活用問題」に関する調査結果

(1) 平成 29 年度の「活用問題」

平成 26 年 12 月に策定した広島版「学びの革新」アクション・プランに基づく高等学校課題発見・解決学習推進プロジェクトを平成 27 年度からスタートさせたことを機に、各教科において習得した知識・技能を活用する力を問う「活用問題」（A 問題（第 1 学年相当）、B 問題（第 2 学年相当）とも共通問題）を取り入れている。実生活や具体的な授業の場面における課題解決のために、知識・技能を活用して、構想を立て実践し、評価・改善する力などを見取る問題を作成し、出題した。

(2) 結果

ア 各教科について

①国語

科目	問題	活用問題 問題番号	活用問題 通過率 (%)	活用問題以外 通過率 (%)	教科 (科目) 全体の通過率 (%)
国語総合	A 問題	6	33.2	71.7	68.0
	B 問題	6	36.1	68.6	65.3

国語総合については、生徒の実態をより丁寧に把握し指導に生かすために、「全国学力・学習状況調査」を参考にして、平成 29 年度、解答類型をより細分化した。上の表の「活用問題の通過率」は、平成 28 年度の解答類型で平成 29 年度の解答を分析した際の正答と準正答に該当する割合を示している。

活用問題の通過率は、教科 (科目) 全体の通過率や活用問題以外の通過率に比べて低い。また A 問題 (第 1 学年相当) よりも B 問題 (第 2 学年相当) の方が通過率が高い。

文章の内容を捉えることや、文章相互の関連性を踏まえて表現すること、また、根拠に基づきながら自分の考えの理由を説明することに課題がある。

②数学

科目	問題	活用問題 問題番号	活用問題 通過率 (%)	活用問題以外 通過率 (%)	教科 (科目) 全体の通過率 (%)
数学 I	A 問題	5	43.6	72.2	66.6
		6	45.0		
	B 問題	5	49.5	69.6	65.2
		6	45.5		

活用問題の通過率は、教科 (科目) 全体の通過率や活用問題以外の通過率に比べて低い。また A 問題 (第 1 学年相当) よりも B 問題 (第 2 学年相当) の方が通過率が高い。さらに、A 問題 (第 1 学年相当) では問題番号 5 (不等式) よりも問題番号 6 (図形) の方が通過率が高いが、B 問題 (第 2 学年相当) では、問題番号 6 (図形) よりも問題番号 5 (不等式) の方が通過率が高い。

具体的な試行錯誤を通して式や図形の特徴を読み取り、構想を立てて論理的に考察し表現することに課題がある。

③外国語

科目	問題	活用問題 問題番号	活用問題 通過率 (%)	活用問題以外 通過率 (%)	教科 (科目) 全体の通過率 (%)
コミュニケーション英語 I	A 問題	10	42.0	69.0	63.5
	B 問題	10	43.7	67.3	62.4

活用問題の通過率は、教科 (科目) 全体の通過率や活用問題以外の通過率に比べて低い。また A 問題 (第 1 学年相当) よりも B 問題 (第 2 学年相当) の方が通過率が高い。

読み取った情報を踏まえ、状況に応じて何を伝えるべきか判断し、自分の言葉で分かりやすく整理して表現することに課題がある。

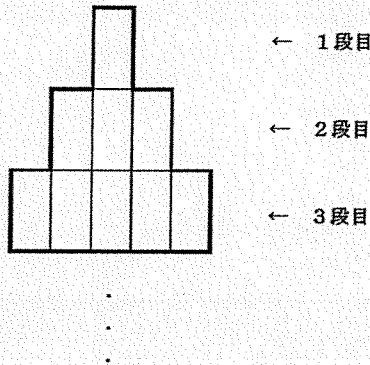
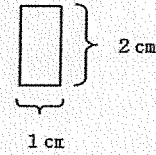
例 (数学)

【今年度の出題のねらい】

具体的な試行錯誤を通して、数の規則を読み取ろうとする。
事象を数学化し、不等式を用いて論理的に考察することができる。

A問題数学 I 5 (1), (2) B問題数学 I 5 (1), (2)

- 5 右の図のような、縦2 cm、横1 cmのタイルがたくさんあります。
このタイルを、次の図のように、上から1段目に1枚、2段目に3枚、
3段目に5枚・・・と規則的に並べて図形を作ります。ただし、太
線は、図形の周を示しています。
この図形について、下の(1)・(2)に答えなさい。



- (1) タイルを5段目まで並べたとき、5段目のタイルの枚数を求めなさい。
(2) 太郎さんは、「図形の周の長さが200 cm以下のとき、タイルを最大何段目まで並べることができますか。」という問題を、次の考え方で解きました。

(太郎さんの考え方)

タイルを2段目まで 並べた図形	タイルを2段目まで並べた図形に 点線を書き加えた図形	縦4 cm、横3 cmの長方形
例えば、上の図のように、タイルを2段目まで並べた図形に点線を書き加えると、図形の周の長さは、 縦4 cm、横3 cmの長方形の周の長さ14 cmに等しいことが分かる。タイルを n 段目まで並べた図形の 周の長さを、 n を用いて表すと $2\{2n + (\text{あ})\}$ ・・・① と表すことができる。 ①を用いて不等式を作り、その不等式を解くと、図形の周の長さが200 cm以下のとき、タイルを最大 何段目まで並べることができるかを求めることができる。		

(太郎さんの考え方)の(あ)にあてはまる式を n を用いて表しなさい。また、(太郎さんの考え方)をもとに、図形の周の長さが200 cm以下のとき、タイルを最大何段目まで並べることができるかを求めなさい。なお、その求め方も書きなさい。

○ 解答状況及び誤答分析

5 (1)

転記 番号	正答○準正答△ 誤答×無解答—	解答類型	割合 (%)	
			A問題	B問題
1	○	9 と解答しているもの	65.8	73.3
2	×	7 と解答しているもの	0.8	0.8
9	×	上記以外の解答	31.4	23.9
0	—	無答	2.0	2.0

5 (2)

転記 番号	正答○準正答△ 誤答×無解答—	解答類型	割合 (%)	
			A問題	B問題
1	○	$2n-1$ と解答し、不等式を正しく作り解くことで 25 を求めているもの	17.4	22.2
2	△	$2n-1$ と解答し、不等式を正しく作ることはできているが、25 を求めることはできていないもの (準正答)	3.9	3.4
3	×	$2n-1$ と解答しているが、不等式を正しく作ることはできていないもの	10.2	10.0
4	×	$2n-1$ と解答していないもの	24.9	21.2
9	×	上記以外の解答	16.7	15.5
0	—	無答	26.8	27.7

【課題】

具体的な試行錯誤を通して式や図形の特徴を読み取り、構想を立てて論理的に考察し表現することに課題がある。

【解答状況】

(1) において、通過率がA問題で65.8%、B問題は73.3%であり、具体的な試行錯誤を通して、数の規則を読み取ることは概ねできている。しかし、問題を正確に読み取ることができていない解答も多い。(2) においては、通過率がA問題で21.3%、B問題は25.6%とともに低いことから、試行錯誤を通して問題の意味を理解すること、式の特徴を読み取り事象を数学化すること、不等式を用いて論理的に説明することができていない。

イ 学校質問紙との相関について

平成 29 年度の学校質問紙調査では、各学校において知識・技能を活用する力を問う問題を出題する取組や、結果の分析を踏まえた授業改善について調査を行った。概ね 8 割の学校において、取組が進んでいる。

[質問項目と肯定的な回答の割合]

(%)

質問番号	質問	1 学年	2 学年
I (13)	定期考査等に知識・技能を活用する力を問う問題を出題する取組 みを、学校全体で組織的に進めている。	80.5	79.1
II 1 (22)	国語科では、定期考査等に知識・技能を活用する力を問う問題を出題し、その結果を分析し授業改善に生かしている。	85.0	83.6
II 2 (34)	数学科では、定期考査等に知識・技能を活用する力を問う問題を出題し、その結果を分析し授業改善に生かしている。	81.2	79.9
II 3 (27)	外国語科では、定期考査等に知識・技能を活用する力を問う問題を出題し、その結果を分析し授業改善に生かしている。	83.5	84.2

質問項目の質問への回答と各教科の活用問題の平均通過率、活用問題全体の平均通過率との相関係数については、それぞれ次の表のとおりである。

質問番号	各教科						全体
	国語総合 A問題	国語総合 B問題	数学 I A問題	数学 I B問題	コミ I A問題	コミ I B問題	
II 1 (22)	0.19	0.13	-	-	-	-	-
II 2 (34)	-	-	0.34	0.29	-	-	-
II 3 (27)	-	-	-	-	0.21	0.22	-
I (13)	-	-	-	-	-	-	0.24

上の表より、数学、外国語において、「定期考査等に知識・技能を活用する力を問う問題を出題し、その結果を分析し授業改善に生かしている。」という質問への回答と、活用問題の平均通過率との間に、やや相関がある。同様に、「定期考査等に知識・技能を活用する力を問う問題を出題する取組を、学校全体で組織的に進めている。」という質問への回答と、3教科全体の活用問題の平均通過率との間に、やや相関がある。

また、質問項目の質問への回答と、各教科の活用問題の無回答率との相関係数については次の表のとおりである。

質問番号	国語総合 A問題	国語総合 B問題	数学 I A問題	数学 I B問題	コミ I A問題	コミ I B問題
II 1 (22)	-0.31	-0.24	-	-	-	-
II 2 (34)	-	-	-0.21	-0.31	-	-
II 3 (27)	-	-	-	-	-0.21	-0.25

上の表より、全ての教科において、「定期考査等に知識・技能を活用する力を問う問題を出題し、その結果を分析し授業改善に生かしている。」という質問への回答と、活用問題の無回答率との間に、やや負の相関がある。

ウ 生徒質問紙との相関について

質問項目に対する回答と各教科の活用問題の平均通過率との相関について、「やや相関がある」と考えられる質問項目は次のとおりである。

- ・「自分から進んで勉強します。」
- ・「わからない問題でも、あきらめないでやってみます。」
- ・「答が間違っていたとき、その理由を確かめます。」
- ・「予習や復習（宿題を含む。）をします。」
- ・「問題集などを使って、できるだけ多くの問題を解くようにします。」
- ・「勉強するときは、今まで習ったことと関連付けて理解しようとしています。」

エ 「活用問題」に関連する質問項目について

生徒質問紙及び学校質問紙において、活用問題を解くために求められる力に関連する質問項目から主体的な学びを促す「各教科の指導」や「生徒の学習行動」についての変容をみるため、平成26年度と平成29年度で比較したところ、国語、数学、外国語のいずれにおいても、教員が、身に付けた知識及び技能を総合的に活用し課題を解決するために必要な思考力等を育む学習活動を設定している割合が増加しており、生徒においても、授業について、講義形式よりも自らの考えを伝え合うなどの活動を通して学習していくことを求める割合が増加していることが分かる。

(参考)

学校質問紙

(%)

教科	項目	学 年	H26	H29	差
国語	「国語科では、ディベート（ミニディベート）やディスカッションを取り入れた授業を行っている。」	1 学年	22.7	45.1	+22.4
		2 学年	25.0	48.5	+23.5
数学	「数学科では、生徒同士がお互いの考え方を交流し、議論・検討する場面を取り入れた指導を行っている。」	1 学年	62.1	82.7	+20.6
		2 学年	61.4	79.1	+17.7
外国語	「外国語科では、読んだ内容について自分の考えを英語で書いたり、自分の考えを書いた英語をもとに意見交換したりするなど、「読むこと」、「聞くこと」、「話すこと」と有機的に関連付けて「書くこと」を行わせる活動を取り入れている。」	1 学年	44.7	55.6	+10.9
		2 学年	49.2	57.9	+8.7

生徒質問紙

(%)

項目	学 年	H26	H29	差
「授業は、ペア・グループ等で互いに考えを伝えあいながら学習する方がよくわかります。」	1 学年	62.3	67.5	+5.2
	2 学年	56.3	62.7	+6.4
「授業では、講義よりも自分で課題を解決していく学習の方がよくわかります。」	1 学年	55.2	61.5	+6.3
	2 学年	55.9	60.9	+5.0

5 「基礎・基本」定着状況調査と同一問題の定着状況

平成 29 年度 A 問題で、平成 27 年度「基礎・基本」定着状況調査と同一問題の通過率の変化
(平成 27 年度の中学校第 2 学年の生徒が平成 29 年度になって受験した結果)

国語総合・数学 I・コミュニケーション英語 I の A 問題と平成 27 年度「基礎・基本」定着状況調査
(中学校第 2 学年 6 月実施) の平均通過率を比べると、すべての科目で上昇しており、義務教育段階
の学習内容は、中学校での調査実施後から高等学校第 1 学年段階でより定着している。

6 前年度からの通過率の変化

平成 29 年度 B 問題で、平成 28 年度 A 問題と内容が同一又はほぼ同一であった問題の通過率の変化
(平成 28 年度の第 1 学年生徒が平成 29 年度になって受験した結果)

【国語総合】

いずれの問題についても通過率が上昇しており、定着が進んでいる。

【数学 I】

数と式を内容とする 2 問については通過率が低下しているが、資料の活用、二次関数については
定着が進んでいる。

【コミュニケーション英語 I】

相手の意図を理解し応答する問題については通過率が低下しているが、対話の概要や要点を把握
する問題については定着が進んでいる。

Ⅲ 質問紙調査について

1 各科目の平均通過率と正の相関関係が見られた主な調査項目について

(1) 生徒質問紙調査結果

いずれの年次でも相関係数が高く、平均通過率と有意な関連があると考えられる項目

【生活などに関する項目】

携帯電話等を用いてメールや SNS (ソーシャルネットワーキングサービス) を利用する時間が
短いこと。

【学習に関する項目】

- ・答が間違っていたとき、その理由を確かめること。
- ・家庭での、平日、休日の 1 日当たりの勉強時間、1 週間当たりの勉強日数が長いこと。

(2) 学校質問紙調査結果

いずれの年次でも相関係数が高く、平均通過率と特に有意な関連があると考えられる項目

【全ての教科の指導に関する項目】

- ・計画的に宿題などの学習課題を出している。

【国語科についての項目】

- ・国語科では、古文及び漢文を読むときには、文語文法や句法についての知識をもとに、前後の関
係をとらえながら読み取らせる指導を行っている。

【数学科についての項目】

- ・数学科では、二次関数のグラフから読み取れることや、関数の式における係数の意味を考えさせ
るなど、式とグラフの関係を考察させる指導を行っている。

【外国語科についての項目】

- ・外国語科では、読んだ内容について自分の考えを英語で書いたり、自分の考えを書いた英語をも
とに意見交換したりするなど、「読むこと」、「聞くこと」、「話すこと」と有機的に関連付けて「書
くこと」を行わせる活動を取り入れている。

【その他の教育活動に関する項目】

- ・家庭学習の状況について調査し、学習指導に生かしている。
- ・学習課題の質や量を教科間で調整している。

〔参考資料1〕 通過率が60%以上の生徒の割合が80%以上の学校一覧

校番	学校名	国語(国語総合)		数学(数学Ⅰ)		外国語(コミュニケーション英語Ⅰ)	
		国語A	国語B	数学A	数学B	外国語A	外国語B
1	広島皆実	○	○	○	○	○	○
2	広島国泰寺	○	○	○	○	○	○
3	広島観音	○		○	○	○	○
4	広	○	○	○	○	○	○
5	呉宮原	○		○	○	○	○
6	呉三津田	○	○	○	○	○	○
7	三原		○	○	○	○	○
9	尾道東	○	○	○	○	○	○
10	尾道北	○	○	○	○	○	○
11	福山誠之館	○	○	○	○	○	○
13	海田	○		○			
15	廿日市	○	○	○	○	○	○
24	賀茂	○	○	○	○	○	○
26	忠海			○			
33	府中	○	○	○	○	○	○
36	三次	○	○	○	○	○	○
37	庄原格致	○		○			
49	五日市	○		○	○	○	○
51	安古市	○	○	○	○	○	○
52	大門	○	○	○	○	○	○
54	福山明王台			○	○		
56	高陽	○		○	○	○	
58	広島井口	○	○	○	○	○	○
64	神辺旭				○		
68	祇園北	○	○	○	○	○	○
69	高陽東			○			
73	安芸南	○		○	○		
94	呉商業	○					
125	広島	○	○	○	○	○	○
126	総合技術			○			
201	広島市立基町	○	○	○	○	○	○
202	広島市立舟入	○	○	○	○	○	○
203	広島市立安佐北	/	○	/	○	/	○
204	広島市立沼田	○		○			
205	広島市立美鈴が丘	○		○	○	○	
209	呉市立呉	○		○	○	○	
211	福山市立福山	○		○	○	○	○
212	広島市立広島中等教育	○	/	○	/	○	/
	学校数(H29)	31	20	35	30	27	24
	(参考) 学校数(H28)	32	31	32	28	32	32

受験者数が10人以下の科目を除いて作成。

[参考資料2]2年次の時の成績が1年次の時の成績より伸びた学校一覧

校番	学校名	国語(国語総合)	数学(数学Ⅰ)	外国語(コミュニケーション英語Ⅰ)
1	広島皆実	○	○	○
2	広島国泰寺	○	○	○
3	広島観音		○	○
4	広島	○	○	○
6	呉三津田	○	○	○
7	三原	○	○	○
9	尾道東	○	○	○
10	尾道北	○	○	○
11	福山誠之館	○	○	○
12	福山葦陽		○	
13	海田	○	○	○
14	音戸	○		○
15	廿日市	○	○	○
16	大竹		○	○
18	大柿	○	○	○
19	可部		○	○
20	加計	○	○	○
20	加計(芸北分校)		○	○
21	千代田		○	○
22	吉田	○	○	○
23	向原	○	○	○
24	賀茂	○	○	○
25	竹原			○
28	御調	○	○	○
30	世羅	○		
31	松永	○		
32	沼南	○	○	○
33	府中	○		○
35	上下		○	
36	三次	○	○	○
37	庄原格致		○	○
38	東城	○		○
39	瀬戸田	○	○	
43	日影館		○	
44	黒瀬	○	○	○
50	河内	○		○
51	安古市	○	○	○
52	大門	○	○	○
57	熊野			○
58	広島井口	○		○
59	豊田		○	○
62	安西		○	○
63	安芸府中	○	○	
64	神辺旭		○	○
65	府中東	○	○	○
70	呉昭和	○		
72	湯来南	○	○	○
73	安芸南		○	
82	福山工業		○	○
83	呉工業			○
88	神辺			○
90	西条農業			○
95	福山商業		○	○
97	西城紫水			○
121	大崎海星			○
122	戸手		○	
125	広島	○	○	○
201	広島市立基町	○	○	○
202	広島市立舟入	○	○	○
203	広島市立安佐北	○	○	○
211	福山市立福山		○	○
	学校数	37	46	51

2年次に、1年次に受けたA問題の科目と同一のB問題の科目を受けていない(比較可能なデータがない)課程、学科を除いて作成。

比較可能なデータが10人分以下の科目を除いて作成。

○: H28年度A問題の科目とH29年度B問題の科目とを比較して、通過率が60%以上の生徒の占める割合の変化の値が、県全体の当該割合の変化の値よりも大きい教科。

(参考)	60%以上の割合			
	県全体	H28A問題(%)	H29B問題(%)	変化
国語		72.5	61.3	-11.2
数学		66.4	64.5	-1.9
外国語		64.6	54.8	-9.8